

漁況予報 い わ し

第203号

【2017年9～10月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、7月は410トンと前年(444トン)並で平年※¹(194トン)を大きく上回りました。8月は150トン(速報値)で、前年(397トン)を大きく下回り平年(176トン)並でした。

まき網は、東京湾で7月に、相模湾で断続的に餌イワシとして漁獲がありました。

魚体は、両月とも被鱗体長※²(以下同)10-13cm(11-12cmモード)で、これは2017年生まれの0歳魚で、春生まれのマシラス(マイワシ仔魚)が成長したものです。

今後の漁模様にも期待したいところです。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、7月は80トンで、前年(242トン)および平年(186トン)を大きく下回りました。続く8月も10トン(速報値)で、前年(278トン)および平年(82トン)を大きく下回り、マイワシやウルメイワシに混じる程度でした。

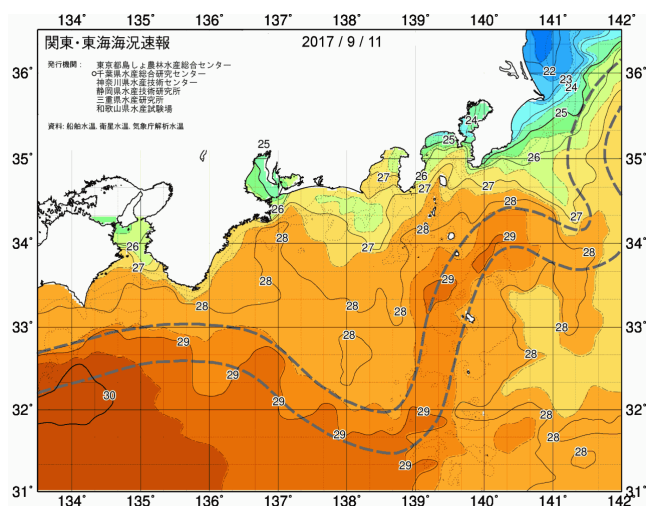
まき網は、7月に東京湾で、相模湾では断続的に餌イワシとして漁獲がありました。

魚体は、9-10cmの小型成魚と6-8cmの未成魚が主体でした。

【シラス】

6月に好漁となった相模湾の春シラス漁でしたが、夏シラスのスタートとなる7月に入ると、新規加入が少なく徐々に漁獲水準は落ちていきました。7月の全体漁獲量(標本船データより推定)は不漁だった前年は上回ったものの、平年をやや下回りました(前年比1.5倍、平年比0.7倍)。

8月に入ると全域では、大不漁となった前年を上回り平年並でしたが、地域別では茅ヶ崎以西で平年並の漁獲水準となった一方で、東側ほど漁模様は悪くなり平年以下となった



地域が多かった模様です。（前年比 3.8 倍、平年比 0.9 倍）。

なお、黒潮が大きく蛇行しており（図参照）、2004 年のようにシラス漁にも大きな影響が及ぶ可能性がありますので、その動向を注視する必要があります。

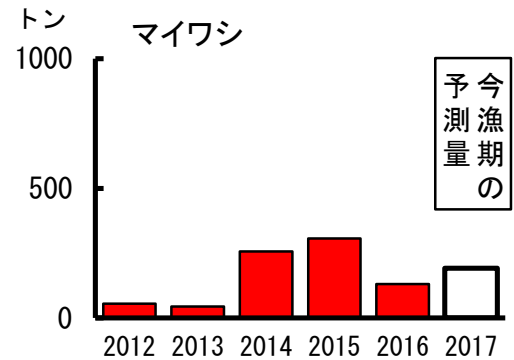
= 予 報 =

過去 5 年の 9・10 月漁期の漁獲量と
今漁期の予測量

【マイワシ】

今漁期は、2017 年生まれの小羽マイワシ（11～14cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、春季のマシラスおよび 7,8 月のヒラゴ漁獲状況から、前年を上回る約 192 トンと予測されます。

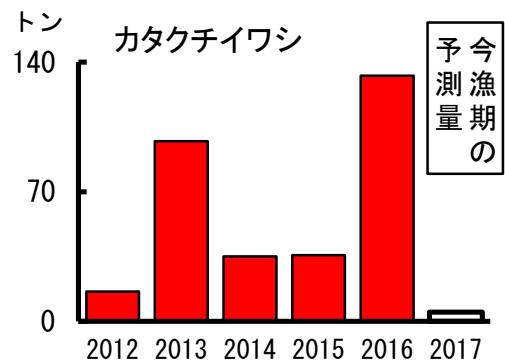


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、未成魚（6～8cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前年を大きく下回る約 5 トンと予測されます。

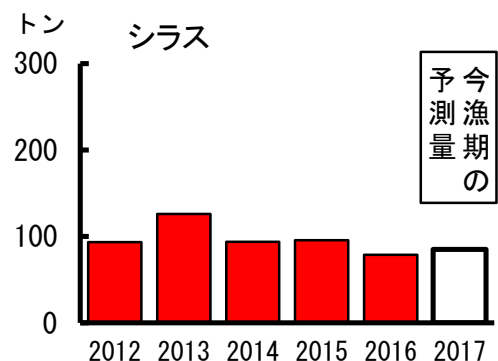


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、8 月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前年並の約 85 トンと予測されますが、概況の図のように黒潮が大きく蛇行しており、大蛇行型になった場合は予測値を大きく下回るでしょう。



神奈川県水産技術センター企画資源部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313